



# 新座中だより

令和7年度 特別号《令和7年度学校評価》

学校教育目標  
強く 明るく 考える

〒352-0011 埼玉県新座市野火止二丁目4番1号

電話(048)478-3668 FAX(048)482-0131

新座市立新座中学校

令和7年度の学校評価を公表します。これを基に令和8年度の教育活動にさらに改善を図っていきます。

**自己評価** 職員による評価、保護者・生徒による学校評価を基にして職員会議で職員全体の評価をまとめたものです。

**学校関係者評価** 学校関係者評価委員会(校長が委嘱した7名の委員で構成。学級経験者、民生委員、主任児童委員、卒業生の保護者、保護者)でまとめたものです。

**評価基準** S:目標を完全に達成できた状況 A:目標をほぼ達成できた状況(達成度9割以上) B:目標を達成できなかった状況(達成度9~7割) C:目標を達成できなかった状況(達成度7割未満)

## 評価項目「組織運営」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は学校教育目標の実現に向けた組織運営を行うべく、「ICTの活用」「教育課程の見直し」「最適な学びの提供」に取り組んでいる。	A	「生徒ファースト」「誰一人置き去りにしない」を目指す教師像のもと、ICTの活用により個別最適な学びに近づくようアイデアを共有し工夫を重ねてきた。生徒は効果的に活用し課題解決につなげているが、保護者の中には浸透しきっていない部分がある。「4つのプロジェクト会議」を立ち上げ全職員が所属しボトムアップで学校課題に立ち向かう体制が構築された。	A	学校経営方針が教職員に浸透し、指導のベクトルが一致している。「生徒ファースト」「誰一人置き去りにしない」を心掛けた学習指導、ICT活用に加えて「ファシリテーション」についての研修を積み重ね、不断の働きかけを行っている。プロジェクト会議をはじめとした働き方改革への取組、実際に在校時間の縮減や課題を自分事として捉えやりがいを持って取り組むことができている。特に「誰一人置き去りにしない」にこだわり、引き続き改善する方向へ進めてもらいたい。目指す学校像の重点目標に「強く 明るく 考える」を意識において教育活動に取り組んでいる。「働き方改革」は、教師のやりがい・負担感・負担の軽減を考えながら確実に進めていただきたい。

## 評価項目「学力向上」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は生徒の学力向上のために、「指導と評価の一体化」「ICTの活用」「各教科の見方・考え方を軸とした授業」を念頭に置いた教育活動を行っている。	A	全国、県の学力調査では昨年以上の数値向上に至った。一斉型授業からの脱却を目指し「ファシリテーター」の研究を進めた。主体的・対話的で深い学びを保障するため昨年までの研究で培ったコミュニケーション能力、非認知能力を向上させる取組を継続し、学力数値も安定化を図りたい。	A	多くの項目で前年の本評価より評価が向上されており、授業改善が推進されている。一人一人の生徒の学びのサイクル、目的が生徒・保護者と共有できているか、伝え方・意識の持たせ方を丁寧にしていただきたい。授業におけるICTの活用で発達障害、学力・能力に適した学習指導を行っているが、ICT能力の向上と生徒の心の成長が比例していない。情報モラル教育の機会が多いことは評価できる。特活、道徳、総合、全教科で横断的に取り組んでいただきたい。生徒のコミュニケーション能力は全体として向上している。今後は「ファシリテーターとしての教師の在り方」の研究を通して「学び合い」をより充実させ、真の学力向上につなげてほしい。

## 評価項目「豊かな心の育成」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は豊かな心の育成のために「対話・尊重・協働の意識づけ」「進んで挨拶をする環境の醸成」「個性を認め合える環境づくり」を行っている。	A	生徒アンケートの数値はほぼ横ばいであるが、各学年の年度当初の課題が教職員とのコミュニケーションやきめ細やかな教育相談により改善している。生徒・保護者の評価は教職員個人の接し方に寄る部分が大変大きい。教職員の言葉遣いや対応については指摘は減ったが、さらに襟を正して教育活動に向き合う必要がある。	A	生徒一人一人を尊重した教職員の対応により、生徒にとって学校が楽しいと考える生徒の割合が高く、教職員への信頼感も強い。生徒とのきめ細かいコミュニケーションにより、教育相談的事実の改善が進んでいる。行事でも日常生活でも、生徒の自立を妨げない教育を進めていて、生徒たちが自立・責任感を持って行動しているように感じる。教職員のあいさつや言葉遣いは、引き続き個人への声掛けを継続していただきながら、教職員集団の雰囲気高められるよう研修を重ねていただきたい。

## 評価項目「健康・体力の向上・安全」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は生徒の健康・体力の向上・安全のために、「体力向上」「食育」「危機管理体制の整備」を推進している。	A	体育授業、部活動で体力向上を図っており、昼休みの校庭・体育館開放は大盛況である。栄養教諭による「献立の工夫」「委員会による啓発」「給食だよりによる啓発」等が功を奏し今年度も喫食率は100%に近い。不審者対策の避難訓練を抜き打ち含め2回実施し、緊急放送で生徒が率先して動いている。	A	健康や体力はウェルビーイングの基本であり、この項目で評価が高いことは生涯に渡って好影響となる。全ての項目で前年を上回る評価はよい。食育は情熱を持って取り組んでいただいている。危機管理について、不審者対応がバージョンアップしており、緊急時に生徒自身が主体的に対応できる力を高め、助ける側に立つことができる力を醸成してもらいたい。部活動は縮小の中でも工夫して結果を出している。「健康・安全・体力向上」は教育課程上に明確に位置付け、引き続きご指導いただきたい。

## 評価項目「保護者・地域との連携協力」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は保護者・地域との連携協力を推進するために、「地域との対話」「情報提供」「聞かれた学校」に関する取組を積極的にしている。	A	PTA、学校応援団の活動が充実している。新座中だより、各種通信、毎日のホームページ更新等で学校の様子を広く発信している。校務システムの活用により、行事の出欠確認やアンケートの効果的な提出・事務処理が定着している。「立志の日」「非行防止教室」「性に関する講演会」「ライフプランセミナー」等、外部の人材活用機会が増えた。保護者・地域の方々には可能な限り学校に足を運んでいただいている。	A	ホームページの更新が早く、「第2の正門」として発信できている。各行事において、地域と一体となり子どもたちを育てているという実感がある。PTA等が縮小傾向にある中で、積極的に地域や外部との連携を推進できている。コミュニティスクール県内中学校第1号として将来への在り方を示している。この項目が中学校で高評価な学校はなかなかない。情報が生徒に伝わっているからこそ保護者・地域にも浸透しているし、地域の力が学校にも伝わっている。引き続き、教職員が「地域の中にある学校」という意識をもって教育活動を進めていただきたい。

以上の学校評価を受けまして、来年度も「強く 明るく 考える 生徒」の育成を目指し、次のように取り組みます。

### ○「学力向上」

- 基礎学力を定着させるために、少人数学習の活用やICTの活用等指導方法の改善に努め、本校の研究主題でもある“生徒が主役”の授業を展開する。
- Qubena、ロイノートを日常的に活用し、生徒の発達や能力に応じた個別最適化の指導・支援を推進する。

### ○「豊かな心の育成」

- 生徒一人一人が学級や学年での役割を自覚し、安心・安全に集団生活を送れるように、学級・学年経営を行う。そのためにきめ細やかな指導・支援も行う。
- いじめ等に対して、教職員だけでなく生徒にも意識を高く持たせ、いつ何時でも起こりうることを自覚し、特に予防・早期発見・解決に向けて取り組む。
- 場に応じた言動を教職員自らが行えるよう、粘り強く指導を繰り返す、教職員自らが手本となる行動がとれるようにする。